

I 実践

1 研究主題

互いに認め合い、思いやりと助け合いの心を育てる人権教育の在り方

2 主題設定の理由

本校では、児童の自己肯定感を高めることをねらいとし、「一人一人を生かす学級づくり・授業づくり ―児童理解・集団づくりの実践を通して―」を研究テーマに学校課題研究に取り組んでいる。児童の自己評価の分析から、自分のよさに気づいていない、友達との関係づくりがうまくできない、将来の夢がもてない等、自信のない様子が明らかになったことを受け、児童自身が自分のよさに気づき伸ばす場を設定し、一人一人のよさが発揮され、認め合い・高め合える集団づくりを目指している。

また、本年度は、校長の掲げる3つの言葉「命」「ドンマイ」「ありがとう」の大切さを全校朝会や朝の会・帰りの会等に伝えていくとともに、学級・校内に言葉を掲示し、推進に努めている。

本校の児童は、明るく素直であり思いやりのある言動が見られる一方、自己中心的な行動や相手の気持ちを考えない言動も見られ、トラブルが生じることがある。「ドンマイ」「ありがとう」と声をかけ合いながら相手を思いやる心や助け合う心を育て、互いのよさを認め合うことで、自分のよさにも気づくことができるように本主題を設定した。

3 実践内容

(1) 集団づくり

ア わんぱく集会（縦割り集団活動）

1～6年生の縦割り集団を「わんぱくグループ」として年度初めに編成し、月に一度の活動をロングの昼休みに「わんぱく集会」として行っている。上級生は下級生の面倒を見ることで、思いやる心や態度の育成になっている。下級生は優しく教えてくれる上級生に親しみをもち、一緒に楽しく遊びながら、集団活動のルールや心がまえを学んでいる。

イ わんぱくタイム（学級単位の集団活動）

毎週水曜日の昼休みは、クラスごとに遊びの計画を立て全員で遊ぶ「わんぱくタイム」として行っている。相手の気持ちやさまざまな立場を考慮しながら遊びの計画を立て、みんなで楽しく遊ぶことでよりよい学級づくりに役立っている。

ウ カードの活用

毎日の生活の中で友達に助けられたことや友達にしてもらって嬉しかったこと、友達のよいところなどをカード（ありがとうカード、友達のいいところ発見カードなど）に書いて、友達に渡したり教室に掲示したりしている。

エ 帰りの会・週案の活用

帰りの会で「今日のありがとう」を発表している。児童だけでなく、教師も褒めることで友達のよさをみつけ、認め合うという意識を高めている。また、週案の裏面を利用し、児童一人一人の紹介や頑張ったこと、日頃の心温まる出来事などを「素敵な仲間紹介」として載せている。

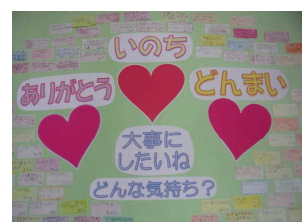
(2) 環境づくり

ア こころコーナー（人権コーナー）の設置

昇降口の正面が「こころコーナー」である。人権メッセージやポスターを掲示して、人権への啓発の場としている。

イ 各教室での取り組み

ありがとうカードやいいところ発見カードなどを掲示した。友達のよさに気づいたり、感謝の心を表したりするよい機会になっている。



(3) 地域・異学年との交流活動

ア 金沢ふれあい会（地域のお年寄りとの交流会）

地域に住むお年寄りを学校に招き、昔の生活の様子や昔の遊びを教えてもらった。給食を一緒に食べて交流を深め、感謝の気持ちと思いやりの心をもつことができた。



イ 自警団との交流会

毎日お世話になっている自警団の方々をクラスに招き、お礼の言葉や歌などを発表したり、会食をしたりして感謝の気持ちを伝えた。

ウ 生活科

4月には、2年生が1年生と手をつなぎ、面倒を見ながら校内を案内した。

11月の秋祭りには、2年生は1年生を、1年生は幼稚園生を招待して、優しく教えてあげながら楽しく活動する姿が見られた。

(4) 人権教育週間の設置

ア 人権ビデオ教材の視聴

各学年の発達段階に応じたビデオ教材を視聴し、学年や学級で人権について話し合った。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 学年・・・とべないホテル | 2 学年・・・よっちゃんの不思議なクレヨン |
| 3 学年・・・プレゼント | 4 学年・・・ありったけの勇氣 |
| 5 学年・・・よーいドン！ | 6 学年・・・なくそう子どものネット悲劇 |

イ 人権メッセージへの応募

中・高学年では全クラスで取り組み、人権意識を高める機会となった。

4 成果

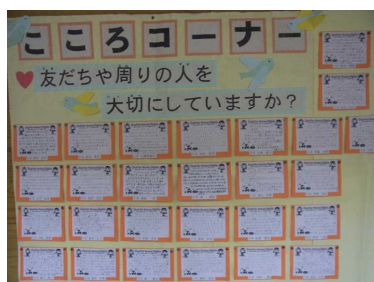
- (1) 様々な体験活動を通して、互いに認め合い・高め合う機会をもつことができ、相手を思いやる気持ちや助け合おうとする心が育ってきている。縦割り集団活動での高学年生の接し方を手本にし、わんぱく集会以外の場面でも下級生に優しく接し、学年の枠を超えて一緒に遊んだり、教えてあげたりする姿が見られた。
- (2) 「命」「ドンマイ」「ありがとう」の言葉が児童に浸透し、声をかけ合う度に笑顔が見られた。友達を思いやる心をもつことができ、友達のよさを認めることで、集団活動や友達との関係づくりが円滑になってきている。

II 今後の課題

- 1 友達のよいところを認め、思いやりの心が育っている一方、軽い気持ちでのからかいや「みんなも言ってるから。」といった判断力の乏しさを感じることもある。相手の気持ちを考えて行動することができる判断力と実践力、人権感覚の育成を今後も図っていきたい。
- 2 職員研修や家庭・地域への啓発を充実させ、学校・家庭・地域が連携し、人権教育に取り組めるように努めていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

《人権コーナー》



《教室・廊下に掲示》

